

ミクロ経済学

次の 2 問から、1 問を選択し解答しなさい。

問 1 総時間 T を余暇 L と労働供給 $(T - L)$ に配分する家計の行動について考える。家計の 1 時間当たりの賃金率が w である時、家計の予算制約式は以下のように表される。

$$Y = w(T - L) = -wL + wT$$

家計の効用は、 $U(Y, L)$ として表され、家計は所得（消費） Y と余暇 L の選択に直面しているものとする。この時、以下の間に答えなさい。

- (1) 今、税率 t ($0 < t < 1$) の労働所得税（比例税）が課された時、課税前と課税後で予算制約式はどのように変化するか。縦軸を所得（消費） Y 、横軸を余暇 L として図示しなさい。
- (2) 所得税が労働供給に与える効果は、家計の無差別曲線の形状によって異なるが、労働供給が増加するケースについて、代替効果と所得効果の關係に注目しながら説明しなさい。（説明には図を用いること。）
- (3) 上記の二財モデルの枠組みでは考慮されていないが、労働供給に影響を与えると考えられるその他の要素について、例を挙げながら論じなさい。

問 2 以下の設問に答えなさい。

- (1) 独占企業の限界収入曲線が、独占企業の直面する需要曲線よりも下に位置する理由を説明しなさい。
- (2) 独占企業が選択する供給量が社会的に非効率となる理由を、図を用いて説明しなさい。
- (3) 完全価格差別が可能な場合に独占企業が選択する供給量を、(2) で用いた図を基に図示し、その効率性について論じなさい。